

静岡県警察持続可能な信号機の整備の在り方に関する検討会（第1回）

議事要旨

1 開催日時 令和元年11月8日（金）午後1時30分から午後3時30分まで

2 開催場所 静岡県警察本部（県庁別館）10階会議室

3 出席者

【検討委員】大村委員（代理大塚委員）、小森委員、曾根委員、瀧委員、名雪委員（代理渡邊委員）、新倉委員、村松委員、吉川委員、和田委員、（平川委員（欠席））

4 議事概要

(1) 交通規制課長挨拶

吉田交通規制課長から、挨拶後、交通規制業務の紹介、県下の交通信号機の現状と限られた予算内での整備状況、今後の信号機の整備の在り方について説明を行った。

(2) 検討会の趣旨、信号機の現状と課題等について

齋藤交通規制課長補佐から検討会の趣旨、信号機の現状と課題等について説明を行った。

(3) 質疑応答

ア 大塚委員

- ・ 信号機の更新、老朽化への対応、自動運転等の対応等、大変重要な課題がある。
- ・ 次回以降の検討会では、地域住民へ現状の課題や今後の進め方についての理解が重要。

イ 小森委員

- ・ 道路管理者としても「作るよりも管理する方に金がかかる時代だ」と考えさせられた。
- ・ 国交省として複数交差点の検討や統合柱の整備で協力できるのではないか。

ウ 曾根委員

- ・ 住民の理解が得られなければ絵に描いた餅になってしまう。
- ・ 通学路における信号要望が多い中、信号に変わる代替案を考えていかなければいけない。

エ 瀧委員

- ・ 信号機の設置や維持には非常にお金がかかることがわかった。
- ・ いらいない信号機が各所にある。見直しを進めて撤去するものは撤去すべきである。

オ 渡邊委員

- ・ 通学路の点検で各学校から信号要望があがっているのが現状。
- ・ 住民要望と警察の考えの相違をどう擦り合わせていくか考えなければいけない。

カ 新倉委員

- ・ 会議資料から県警の危機感が生まれている。また、住民へ理解していただくという姿勢に感銘を受けた。
- ・ 信号撤去後の代替手段をどのようにしていくか、しっかり示さなければ理解が得られない。
- ・ 信号機の役割については、交差点の場所・環境によって大きく変わるため資料に示した図

の整理が必要ではないか。

キ 村松委員

- ・ 今日に至るまで交通事故が減ってきているのは、獲得してきた予算により信号機が増えた結果であることも伺える。
- ・ 一方で予算が限られている中で、交通事故を減らす目的を考えると、廃止できる信号機をいかに減らすか、そして、代替措置をどのようにしていくか。

ク 吉川委員

- ・ 地元住民との合意形成が重要であり課題だと感じた。

ケ 和田委員

- ・ 10年以上前からインフラの更新が叫ばれており、いよいよという危機感がある。
- ・ 一度、設置した信号機を撤去するのは難しい風潮がある。
- ・ 信号がないと安全に通行できないという意識を変えること、啓発していくことが必要。

5 次回検討会開催について

(1) 開催日：令和2年1月頃

(2) 議 題：

ア 信号機の見直しに向けた具体的事例（成功例や失敗例）の紹介と方向性

イ 報告書の「とりまとめ案」についての議論